

# センター通信

NO. 369 令和7年12月24日  
発行 東大阪市教育センター

「探究」と「対話」  
「トライ&エラー」



## 子どもの「やってみたい！」が広がる時間

11月25日（火）、北宮こども園にて、公開保育と子育て講演会を行いました。本講演会は、子育ての楽しさや子どもの育ちに寄り添う視点を広く地域の皆さんに知っていただくことを目的として、東大阪市民、市内学校園教職員を対象に、毎年実施しています。



## 教育講演会

### 保育の見学 「『やってみたい！明日もしたい！』を大切に ～わくわく・ドキドキ・ハッピータイム～」

前半の公開保育では、異年齢の子どもたちがともに遊ぶ「ハッピータイム」の中で、それぞれが興味をもった遊びに向かい、思い思いに楽しむ姿が見られました。色紙やテープ、木の実などの素材を使い、自分のイメージを形にしようしたり、どんぐりや紙皿などを使って「転がる仕組み」を試す姿が印象的でした。「どうしたらうまく転がるかな？」と角度を変えてみたり、「もう一回！」と何度も繰り返し試してみたりと、これまでの生活経験をもとに、小さな探究を積み重ねる姿は、とてもいきいきとしていました。また、年長児が年少児とともに、園で飼っているカメの「かめきち」が安心して過ごせるよう、段ボールを使って自由に散歩できる庭を作ったり、寒くならないように木の葉を集めてベッドを作ったりする姿が見られました。かめきちのことを思い浮かべながら工夫を重ねる様子が大変印象的でした。こうした遊びの積み重ねは、年長児にとっては「自分の考えや行動が誰かの役に立つ」という自己有用感につながり、年少児にとっては、身近な年上の子どもの姿から学ぶ大切な経験となっていました。



子どもたちは、自分の好きな遊びを選び、異年齢で教え合ったり協力したりしながら、やり抜く力・主体性・判断力・協調性・思いやり・工夫する力など、非認知能力といわれる多様な力を育んでいます。こうした姿から、日々の生活の中で「気づく・ためす・考える」といった「学びの芽」が確かに育っていることを、参加者の皆さんにも感じていただけたことと思います。

### 子育て講演会

#### 「いっしょに育つ子育て～心がうごくと、育ちがはじまる その瞬間に寄り添って～」 講師：大阪総合保育大学 大方 美香 学長

後半の講演会では、大阪総合保育大学 学長の大方美香先生をお迎えし、「いっしょに育つ子育て ～心がうごくと、育ちがはじまる その瞬間に寄り添って～」というテーマでお話しいただきました。講演では、子どもが遊びの中で「やってみたい！」「楽しい！」と感じる瞬間を大切にし、その過程をあたたかく見守る大人のまなざしの重要性について、お話しいただきました。また、「心とからだの準備ができると挑戦できる」という言葉とともに、抱っこや声かけ、笑顔といった日々のささやかなやりとり（情動交流）が「安心の土台」を育み、子どもの挑戦を支えていくというお話には、参加された方々も深くうなづいていました。

#### 講師紹介

大方 美香



大阪総合保育大学 学長

専門は保育学・乳幼児教育学。自宅を開設した地域の子育てサロンぶらんこを主宰し、子育て支援の実践にも携わる。

文部科学省中央教育審議会委員、厚生労働省社会保障審議会委員 等を歴任。著書多数。

#### 《参加者の感想より》

- ・講演がとても分かりやすく、子どもへの関わり方を見直すきっかけになりました。家庭でも、子どもの気づきや挑戦を大切にして、忙しい中でも、一つひとつの関わりを丁寧にしたいと思いました。
- ・子どもたちが自分のしたい遊びをしっかり楽しんでいるなど感じました。自分がしたいことを試して、できた嬉しさを友だちや先生に伝えている姿は、素敵だなと思いました。また、やってみたけどできない… そこから自分なりに工夫してみようとする力もすごいと思いました。

# 「STEAM 探究教育」に取り組んでいます

調査・研究

10月センター通信でもお伝えした通り、今年度は楠根小学校・上小阪小学校・上小阪中学校の3校を研究協力校として、総合的な学習の時間を軸に、探究的で教科横断的な視点を取り入れた学びに取り組んでいます。



## 取り組みの紹介

### STEAM 探究教育の実践

実社会、実生活の問題に対し、子どもたちが「なぜ〇〇なんだろう」と自ら問い合わせを立て、各教科での学習（知識・理解）をもとにして、試行錯誤を繰り返しながら、「どうすれば実現できるか」創造力を働かせながら解決する力を育していく。  
何より子どもたちの好奇心を大事にし、「わくわく」「ドキドキ」する学びにする。

## ＜楠根小学校5年生＞テーマ 「カラフルな世界とともに～知る、つながる、広げる～」

子どもたちは、様々な国につながりのあるゲストティーチャーからそれぞれの歴史や文化、暮らしを学び、実際にコリアタウンを訪れることで、多様な文化や人々に触れながら各国の魅力を実感してきた。振り返りでは、「もっと韓国の文化を学びたい」「なぜ韓国人は辛い食べ物が好きなのか」など、新たな問いを生み出す姿も見られた。各国のダンスや伝統遊びなどの体験を通して、子どもたちは“共生とは何か”を自分ごととしてとらえ始めている。今後はこれまでの学びを整理・分析し、自らの言葉で表現する活動へ進め、「カラフルコミュニケーションパーク」に向けて、STEAM 探究学習をさらに深めていく。



12/10 コンゴ民主共和国の方との出会い

## ＜上小阪小学校4年生＞テーマ 「みんなでつくるみらいのまち～4you～」

子どもたちは校区内を巡り、自らの興味・関心に基づいて調べたい事柄を見つけ、校区探検を実施した。少人数のグループで探検を行う中で、さまざまな不思議や新たな発見をすることができた。今後は、子どもたち一人ひとりが集めた気づきや疑問を基に課題を明確にし、必要に応じて校区探検を通して情報収集をさらに進める。あわせて、課題解決のためにアンケートの実施やポスターによる呼びかけなど、自分たちにできることを模索しながら、まとめ・表現の活動へと発展させ、探究のサイクルを意識し、より深い学びへとつなげていく。



12/12 グループで課題設定

## ＜上小阪中学校1年生＞テーマ 「一人ひとりの“ちがい”が力になる～STEAMで築く共生社会～」

1学期には、総合福祉施設の職員、LGBTQ当事者、在日外国人など、多様な立場の人々との出会いを通じて、生徒たちは、身近な生活の中で抱える困りごとに気づき、「これから社会を、誰にとっても過ごしやすいものにするにはどうすればよいか」という問いをもって探究を進めた。視覚に障がいのある人の移動時の不安や、発達に特性のある人が日常生活で感じる困り感などを少しでも軽減できないかと何度もなかまと意見交流や試行錯誤を重ねてきた。3D モデリングツール等でアイデアをかたちにし（下部写真参照）、11月には、保護者や校区の6年生へその成果を発表した。生徒たちは「（これからも）視覚障がい者にとって少しでも役立つものをつくり、困難を軽減したい」「今後も多様性について考えて、未来をより良くしたい」と振り返っており、身近な社会課題を自分ごととしてとらえ、より良い社会にしたいという思いが伝わる場となった。



11/1 成果発表の様子

3学期には、車いすバスケットボール選手との交流の機会を設け、交流を通して得た気づきをもとに、STEAM 探究学習での学びをさらに深めていく予定である。



歩行中に地図を見ることが軽減され、事故防止につながる。

迷子にならないARメガネ



視覚障がい者が使いやすい自動販売機

3D モデリングツールで設計し、模型製作へ。アイデアをかたちに。



ADHD の人のためのサポートロボット

忘れ物をしたときに教えてくれるなど、生活をサポートするロボット。